

徒步帰宅支援マップ

蟹江町版

この地図は、南海トラフ地震などの地震が発生した場合、又は東海地震の警戒宣言が発せられた場合などで、公共交通機関が停止した場合に、徒步で帰宅する方を案内するために作成しました。

この地図には、道路について記載してありますが、記載してある道路が安全であることを保証するものではありません。

通行の際には、各自で安全に注意して通行してください。

地震発生時又は警戒宣言時は、

- プロック扉や不安定な自動販売機などに近づかない。
- 窓ガラスや看板などが破損して落ちてきそうな建物には近づかない。
- 包帯や三角巾があるときは、ガーゼやハンカチの上から少しきつめに巻く。
- できるだけ、傷口を心臓より高い位置に保つ。
- 神経や筋肉を痛めるため、細い紐や針金は使わない。

など、安全確保に十分注意してください。

応急手当

出血している人を見かけたら……

直接圧迫止血法

- ・出血している場所を、きれいなガーゼやハンカチなどで強く押さえてしまふ。
- ・感染防止のため、できるだけビニール手袋やビニール袋を使用し、血液に直接触れない。
- ・包帯や三角巾があるときは、ガーゼやハンカチの上から少しきつめに巻く。
- ・できるだけ、傷口を心臓より高い位置に保つ。
- ・神経や筋肉を痛めるため、細い紐や針金は使わない。



止血帯法

- ・ひじから肩までの腕と、ひざからそけい部までの足に限り、直接圧迫止血法では止血が困難な場合に行う。
- ・専用の止血帯がない場合は、幅3cm以上のネクタイ、スカラフ、ベルトなどを使用する。
- ・止血帯をゆるめに結び、当て布を置く。
- ・止血帯と当て布の間に棒を入れ、手で当て布を押さえながら、止血するまで棒を静かに回し、棒を固定する。
- ・神経まひや壊死を防ぐため、30分に1回、棒をゆるめ、血流の再開を図る。

骨折している人を見かけたら……

骨折

- ・傷口がない皮下骨折は、痛めた部位の骨を押して強い痛みがあれば骨折の可能性がある。
- ・ケガをしたという覚えがなくても、痛みが続く場合は、骨折の可能性がある。
- ・骨折を疑う症状がみられたら、なるべく早く整形外科に受診し、適切な処置を受ける。

骨折の応急手当

- ・むやみに動かさず、安静な状態にする。
- ・体を冷やすよう、毛布、上着などをかける。
- ・患部は氷のうなどでできるだけ冷やす。
- ・添え木には、傘や雑誌など骨折部分の大きさに合ったものを選ぶ。木片を使用する場合は、柔らかい布やタオルなどで木片を包む。
- ・患部に添え木を当て、三角巾やネクタイ、包帯など長いもので結んで固定する。
- ・骨折部分が変形していても、無理に伸ばさず、そのまま固定する。
- ・ねんざか骨折かわからないときは、骨折しているものとして手当てる。



警戒宣言時の対応(強化地域内)

地震防災対策強化地域内の鉄道、バス、タクシーなどは基本的に運行が停止されます。

鉄道・地下鉄

- 強化地域内への侵入を禁止、最寄りの安全な駅に停車。
- 震度6弱未満、津波なしの地域では、安全に運行可能と判断した場合は、運行継続可

鉄道運行停止箇所

- JR関西本線：名古屋駅～四日市駅間
- 近鉄名古屋線：名古屋駅～川越富洲原駅間
- JR東海道本線：尾張一宮駅より東京方面
- 名鉄名古屋本線：須ヶ口駅より豊橋方面
- 名鉄津島線：全線
- 名鉄尾西線：弥富駅～森上駅間

※JR新幹線について、名古屋駅より新大阪方面は運行継続

※鉄道の運行状況が変わることもありますので、ご注意ください。

避難の仕方

水平避難



- 指定避難所・避難所へ避難すること。
川と垂直方向に逃げましょう。

垂直避難



- 避難所等へ避難するのに危険が伴う場合に、指定緊急避難場所、緊急避難場所、自宅や近隣の建物の2階以上へ避難すること。

地震の揺れを感じたときは水平避難（避難所へ避難）することが大切ですが、状況によっては外へ出て避難所へ行くのがかえって危険な場合があります。以下の項目に一つでも当てはまるときは無理に外に出ず、少しでも高いところに避難する垂直避難をしましょう。

- 避難所までに30cm以上浸水しているところを通らなければならぬ。
- 夜間で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- 水深は浅い（20cm程度）が、水の流れが速い。
- 避難路に蓋のない用水路等があり、位置がわからない。

